

上今井遊水地整備事業に伴う発掘調査

みなみ おお はら みなみ おお はら

南大原遺跡 南大原地区 現地説明会資料

令和7年(2025年)9月27日(土)
(一財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター



《遺跡の概要》

・南大原遺跡は、曲流する旧千曲川左岸の自然堤防及び後背湿地上に立地します(千曲川は明治3～5年(1870～1872年)に瀬替えされ、現在の位置に流れを変えています)。

・昭和25(1950)年の神田五六氏らにより、縄文時代前期後半の竪穴建物跡の一部が発掘調査されました。出土した土器は後に「南大原式土器」として位置付けられました。

・令和元(2019年)年度から令和3(2021)年度に県道三水中野線道路の調査を当センター実施しました。弥生時代の^{たてあな}竪穴建物跡が12軒あり、一部に鉄加工を行った工房跡がありました。また、弥生時代のお墓である^{れきしよう}礫床木棺墓^{もつかんぼ}2基がみついています。

- : 南大原地区調査区
- : 南大原遺跡の範囲
- : 上今井遊水地整備事業の範囲

《昨年度の南大原地区の調査概要》

- ・昨年度は、1,000㎡の発掘調査を行い弥生時代から平安時代までの遺構がみつかりました。竪穴建物跡の時期は弥生時代中期後半が5軒、古墳時代前期が2軒、平安時代7軒、の竪穴建物跡がみつかりました。
- ・弥生時代中期後半の竪穴建物跡には、管玉製作工房跡、凝灰質頁岩を石材とする石器製作工房跡があります。
- ・平安時代の竪穴建物跡の向きは、旧千曲川の流路と並行していました。

《令和7年度に発見された各時代の建物跡》

- 【竪穴建物跡】 弥生時代: 12軒、古墳時代: 3軒、奈良時代: 2軒、平安時代: 15軒、
時期不明: 3軒
- 【掘立柱建物跡】 時期不明: 7棟

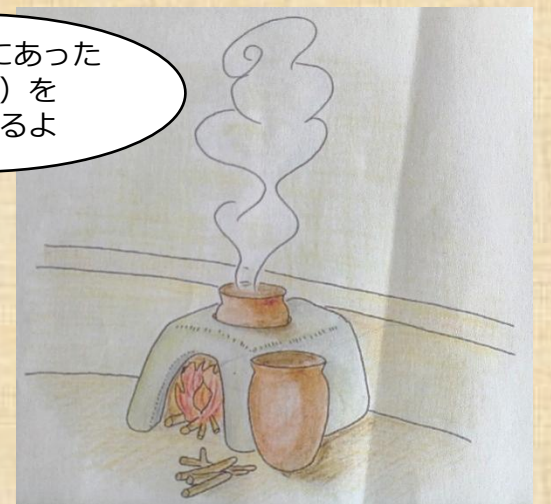
《カマドに注目!》

- ・長野県内では、古墳時代の中頃からカマドが使われます。竪穴建物跡の様々な方角にカマドをもつ家がみられますが、平安時代になると南西側にカマドをもつ家が多くなります。
- ・利用が多いためか、真っ赤に焼けたカマドがみられます。

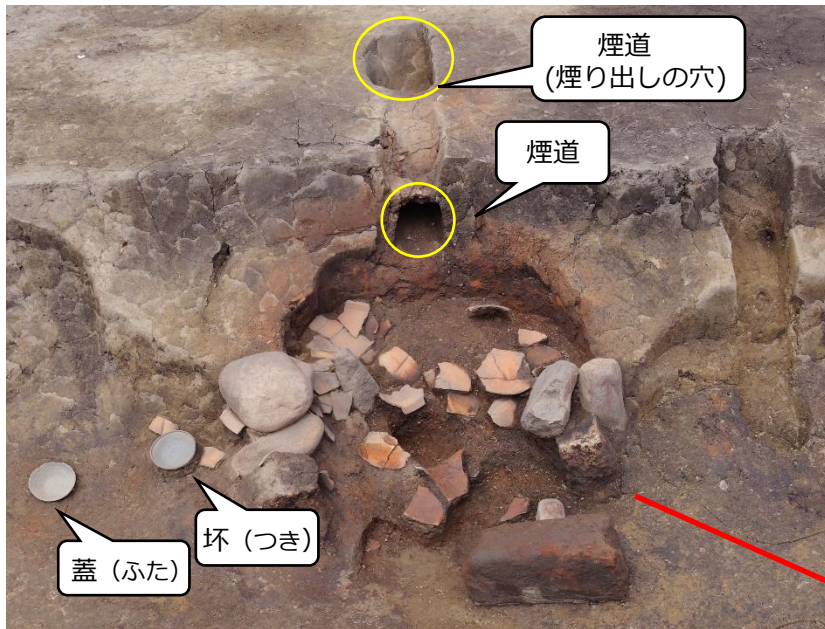


平安時代のカマド(SB149)

カマドの中にあつた
甕(かめ)を
展示してるよ



カマド復元想定図



【SB138・奈良時代】

- ・カマドの横には食器である坏と蓋が置かれていました。竪穴建物を廃棄する際に置かれたものと考えられます。
- ・煮炊きの際に煙を外に出していた、煙道(トンネル状の煙り出しの穴)を見ることができます。



【SB127・奈良時代】

- ・坏が重なって置かれていました。上から、3枚目、4枚目の坏の底に文字？、記号？が墨で書かれている、墨書土器がみつかりました。



【SB148・平安時代】

- ・カマドの横には5点以上の坏が置かれていました。
- ・廃棄時に崩した、カマドを構築していた石が散らばっていました。

